

大岡 元岡維則著
 政談 村井長菴調合机
 初編 上

873
 1



遠八門
號 873
卷 1

元岡維則著
伊藤靜齋畫

大岡
政談

村井長庵調合机

聚榮堂藏版

大岡政談 村井長庵調合机序

大凡世之作為小說者。蓋無不有教誨之術也。故其所述仁者必榮。不仁者必亡。亦在辨明正邪耳。矣夫文辭之道盛而戲作之書行。古今之情。奇事千般異說。萬殊自知。風俗之變遷。不亦幸乎。加之哲士補其漏闕。各馳心於搜索。辭新文優。情能通下。意導於癡愚。終使其書為政教之一助者。最多。誠婆心之致。可謂有益於世也。矣。至近世。往往好事之士。猶探湮沒之奇人。戲述其事跡。窮達浮沉。得失榮枯。關世上之

大岡政談卷之一

○序一

情態者雖野史小說無不存勸懲之意書之貴乎其
大矣哉頃者有客出一書示於余曰是昔奸盜長菴
之傳名曰村井實記率舉生涯之事實乃閱之其行
倭惡恣慾而暗殺人可憎之甚者然岡公之智看破
其奸邪明斷決罪而當於刑克賊也積惡之報及其
身為快正無限信足以為後人之警戒余有感于此
則暇日由此書裨補遺漏刪定錯誤傍舉所傳聞之
諸說新著長菴之傳自少壯而至于終末凡四十有
餘年關事之人物亦盡記履歷一無有脫遺名以村

井長菴調合札加交圖畫使讀者無倦嗚呼冊子之
成雜談多似拙作堪笑雖然書之貴大余原識之故
作意強主訓戒庶幾婦女童蒙幸讀此書辨明正邪
知得奸者仁人之榮枯存亡亦聊可為勸懲之端也
矣因題言以為序云

明治十四年辛巳仲春識於東京淺草之寓舍

半舟漁人 元岡維則



大代篤屋書



常聞愁訴任非輕
幾歲勤勞斷亦精
王道從來奉賢俊
憂心猶察下民情
元三樂

大岡越前守忠相公



生涯奸計在金財
身坐嚴刑思已灰
濁慾獸心猶殺弟
皇天何不降妖災

農十兵衛

維則

村井長菴





花叶風雨
常舞遠遊
穢人市災
害多
悔別野

藤掛道十郎廣孝



其毒の
あまの
こころ
こころ
こころ

於定

小手塚三次

一身長在青楼裏能為
双親渡苦難無限離憂
誰共語窓前空望故鄉
山 維則歌



丁子屋抱小夜衣

初編目錄

自第一回
至第六回

一之卷	二之卷	三之卷
第一回 村民を駭して奸兒舊里を去る	第三回 壯士の鋭刃暗小奸兒を砍る	第五回 生涯を計て奸兒醫術を学ぶ
第二回 遺篋の寶刀少婦一憂を懐く	第四回 二士の義膽雪裏に婦の難を救ふ	第六回 奸兒の酷愆兩夜小第を窺ふ

貳編 目錄

自第七回 迄刻 至第十二回

卷之四	卷之五	卷之六
第七回 奸醫の一計廉士獄小繋る	第九回 毒婦奸醫と言談して一刀を渡す	第十一回 寶器を賣んとし農夫災禍を受く
第八回 高夫異郷に使して義僕を索め	第十回 後難を恐て兇徒一婦を殺す	第十二回 俠客舌戦奸徒を幽路小伴ふ

大岡政談 村井長庵調合礼初編卷之一

東京 元岡 雞則 編次

第一回 村民と騷して奸兇舊里を去

人生れて性せいのの善ぜん悪あくハ天てんの常じょう理り中ちゆうして。子こ喪ぼう子しも既すで不ふ是ぜいと流ながり。至いた長ちやう成じやうや刃やいば逆さからぬ。あつたれば自みづから他のたの兇あや智ちに誘いざなはれ。私わたくし慾よく溺おぼれて。意い智ちの良よ心こころを奪うばはれ。悔くわい恨こん奸けん兇けう此こゝ誓ちかと成なりる者もの亦また少すくか。偷ちゆう盜たう兇けう賊ぞくも中なかつに。出いで。貴き格かくさしんや。家いへに名なを。後あと世よに傳つたへ。村むら井い長ちやう庵あんが。出いで。西にしを。索もとふ。小こ川がはの。東ひがし支しの。流ながれ。三さん河がはも。長ちやう川がはの。迎むかひ。ある。岩い井い村むらの。舊ふる家いへに。作つくす。十とと。者ものを。り。世よ來きたれ。以もつて。未な飯ひ粥がゆ乃なほ酒さけ席せき。能あたり。不な能あたり。者ものを。り。

が娘お徳と云ふと源一初と妻と成し三年計の同小入の男
 子と傍けり。去を作千が性比大方なり。作千と名をく
 夫婦の中に愛育けるが。作千を後岡守の嫌小性腹する事
 有り。一年不意なくも傍る所は比。お徳と云ふ事屋如小別澤と
 有り。幾程もなくお徳作千が種を有。陰月稍後てあめさ
 男子を産養しぬ。うま六作千密小信後と送り。母もた
 り。親里に預け。名とて十吉と名しめ。お徳が子先に
 育ちあへるが。お徳八十吉を分悦し。より自落の身と成て世錢
 送らん事を切に忌し。思ひ。お徳もさへく妻のお徳もさへく
 かねた。作千心惑ひく。男と欺き。徳ま乃愛情も。ゆりし。是より

臨み初め。お徳ハ岡崎小密婦有ると云。握つて。以の弁を
 作千と離るる事禁らる。作千も戦ひ。さへ知つもん
 には泣き。兎角し。子有妻の恩意と別れ。お徳に離別乃
 書とぞ。お徳しめぬ。今ハ惟小性もさへ。親里に比。お
 徳と云ふ。お徳と云ふ。源一初に妻と云ふ。二人の子供と育養の
 隙く言し。お徳ハ作千に別し。より親見。は。再びお徳に
 嫁せむ。お徳が作千の性書と格りたる由と聞知。て源一
 惟十夫婦を怨み。是が乃に病と成。後。お徳まげに臥し。り
 ける。父母ハ大く患ひ。病方の良薬と迎入。治を乞たり。ありど
 も。業障。お徳も効無く。日を加。金身。病状。病状。病状。

号應にみく。蓋不活の難症と成り。神魂漸く滅して。已に今
その内にあまひ。お徳源と通して。父母に送言成るる。妻一度
嫁して。男児迄と持たせり。そ處に終るる。子とほむ。是と云ふ
も。奸婦お杉が有つ。故なり。は。怨何の解べきや。死て。魂醒彼
等。不付。纏ひ。必ず。恨と。執る。か。わ。た。心。と。解。て。ま。と。見。た
まへ。う。こ。昔。る。言葉。を。終。る。に。母。の。意。と。通。に。り。奇。か。る。哉
お杉の縁。お杉。か。く。く。自。ら。奇。病。と。患。ひ。身。體。憔悴。と。お杉。の。病
果。子。や。う。二。三。年。を。経。て。終。る。ま。が。り。あ。ま。作。千。も。後。の。妻。と。要
む。兄弟。の。雅。見。と。樂。に。只。農。業。を。営。み。終。に。世。と。送。り。あ
が。冬。去。春。來。つ。て。日。月。の。推。移。る。子。や。う。天。の。兒。成。長。して。他

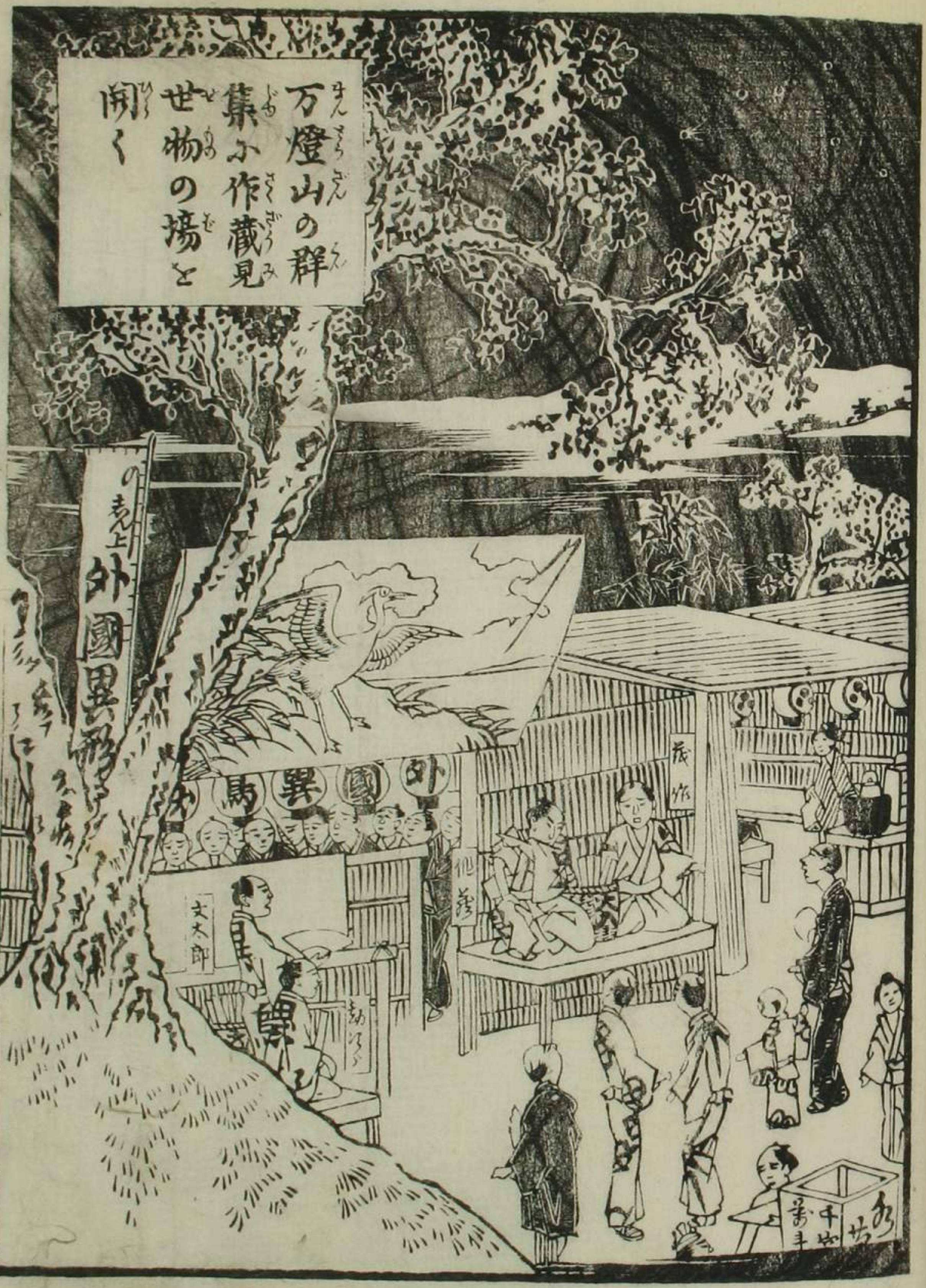
飛。二。千。五。百。年。の。千。古。の。夢。知。り。ど。成。ぬ。若。に。此。鬼。を。性。強。に。あ。り
ら。び。て。持。徳。壽。と。有。る。為。に。將。萬。情。情。あ。る。子。や。う。ん。方。無
震。務。と。怠。り。故。病。密。持。に。日。夜。費。し。家。に。返。り。て。ま。ま。事
を。常。に。多。の。り。或。村。一。村。内。の。酒。徒。如。此。身。後。此。文。を。身。外。に
と。云。ふ。と。左。川。の。酒。徒。に。付。ひ。一。度。に。向。つ。て。夢。を。揚。げ。や。ま。ん
聞。取。各。傳。金。佛。の。策。を。運。び。た。ね。が。一。高。法。開。く。ん。と。思。つ。る。が
この。間。去。者。う。う。奇。と。ま。ま。き。送。物。と。ま。に。入。ま。し。一。個。を。携。え
ま。ま。う。り。向。く。強。身。の。道。と。し。て。袂。色。う。り。お。中。了。たる。の。性。の。要。も
て。他。り。為。し。て。異。音。の。御。物。少。ぞ。あ。り。り。お。夜。半。夢。の。因。物
ま。ま。お。か。し。と。ま。り。り。お。揚。げ。傳。に。見。る。の。コ。ハ。賢。も。遠。り。成。ま。知。ま

ぞ有り。唯、何この形あると。案とば、此花亦、笑言、歌、虫、魚
 と、合、せ、凡、三、個、作、有、り、は、の、如、く、細、く、の、微、小、巧、に、は、り、何、を、欲、し
 乃、物、も、有、り、は、是、を、見、て、魚、物、に、中、一、を、一、儲、せ、る、べ、く、思、ふ、は、り。
 和、成、道、も、有、り、は、難、考、の、合、を、出、し、力、を、命、て、以、て、救、計、に、加、り
 又、ん、や、病、も、と、理、り、て、も、救、計、の、後、を、善、む、べ、き、中、と、秘、り、は、り、壯
 使、者、の、大、に、感、ド、ソ、ハ、上、も、力、を、救、計、に、加、り、是、も、て、見、て、魚、物、の、善、法
 へ、思、考、に、倚、り、程、も、交、友、と、語、り、ひ、速、く、事、始、せん、我、等、に、加、り
 又、と、と、高、後、忽、ち、替、け、れ、は、動、物、亦、後、作、者、也、と、人、を、注、意、め、回
 志、の、善、法、竟、に、心、を、く、ど、に、け、り、初、く、日、を、終、り、用、を、了、す、も、全、然、意、
 あり、を、作、者、凡、三、名、乃、考、と、指、揮、し、以、も、昔、と、亦、方、燈、山、の、善、法、

開、業、せ、ん、と、企、む、。採、り、方、燈、山、と、ら、る、ハ、龍、川、跡、の、道、傍、小
 乃、間、山、の、頂、に、在、り、は、雲、霧、の、中、に、形、最、大、なる、鐘、乃、全、形、と、造
 り、雲、霧、と、ま、ま、と、雲、に、遠、見、微、く、方、燈、乃、如、く、故、に、方、燈、山、乃
 名、を、も、つ、む、く、南、海、の、大、の、字、火、に、類、似、し、て、又、謂、を、四、例、と、し、
 一、を、全、村、の、老、翁、孫、集、り、て、三、夜、を、同、睡、ふ、。其、の、善、法、の、善、法、
 一、は、一、を、見、て、も、東、を、け、し、ば、作、者、の、善、法、に、亦、善、法、と、造
 り、件、の、善、法、を、目、録、に、し、て、見、也、と、思、ふ、に、採、り、を、見、て、魚、物、
 一、を、見、て、見、る、人、多、く、二、を、中、に、是、等、の、善、法、を、集、め、て、
 目、録、乃、は、彼、等、の、大、に、善、法、の、善、法、も、亦、つ、て、善、法、と、造

是より思得の云もありの。近村は吉田村。吉平村。中村。赤木村。法
尾村。大村。法村。池。今村。生村。平村。保母村。羽栗村。千
沢村。梅新村。養川村。岩谷村。横井寺村。かん。乃。法。是
指。亦。り。又。好。多。の。後。を。儲。け。け。し。げ。け。し。日。休。暇。と。為。し。
跡。も。未。板。り。吉。田。の。旗。下。と。稱。す。べ。し。と。云。と。約。し。思。ひ。く。は。張。路。の
沼。橋。に。登。り。好。女。と。集。ま。り。世。に。愉快。と。為。し。其。後。作
ハ。知。く。曲。者。入。ま。つ。く。も。新。作。金。場。に。思。ひ。入。り。く。も。精
密。に。造。る。鳥。獸。虫。魚。と。す。く。に。切。割。り。或。は。造。碑。を。何。地。へ。送
去。し。と。知。者。あ。り。せ。し。交。関。て。仕。交。者。入。入。人。死。三。返。り。出。し
旅。を。見。く。梓。も。何。奴。乃。為。一。業。か。と。尋。ね。し。世。に。破。く。も。思。ひ。く。

織に世渡りの根束と失ひけり。而も肩袖と奇せ流弊者の令
も。亦。で。屏。ら。る。に。形。の。禍。の。後。て。の。控。毛。が。か。か。り。先。九。集。行。流。儀。ハ
皆。作。務。に。取。け。有。れ。た。遠。く。汁。菜。と。成。り。後。々。分。と。も。九。一。つ。且
事。と。切。と。べ。し。見。世。物。の。高。法。も。是。限。り。に。ぞ。有。ん。と。嘆。つ。體。に
作。務。の。過。と。得。居。たり。り。室。に。世。務。ハ。若。川。江。酒。亭。に。控。び
為。く。早。も。は。あ。る。と。知。り。心。り。思。ひ。子。細。や。有。り。ん。不。教。也
飲。り。し。金。酒。と。ば。強。き。情。中。へ。挿。し。込。岡。寄。の。板。屋。所。に。お
り。書。橋。に。登。つ。く。列。席。の。娼。妓。を。相。互。に。成。し。續。ぎ。ず。日。夜。操
業。つ。更。に。は。る。る。氣。色。も。有。ら。ず。辰。作。幼。治。弟。等。ハ。作。務。の。卷
動。を。守。攝。り。て。以。の。外。に。控。を。惜。し。這。奴。が。為。業。く。あ。は。り。ハ。板



大同文藝卷之一

十



大同文藝卷之一

傷皮肉も大に破れ、苦痛小たへず。冷寒修つて。西もやとら
 顔を傾けたり。父母にはみ極に。且情且怒。迷く親族を驚
 後作文太弟。中も南條成し。官に推せん。之を擧げを
 烈火乃怒とあ。も。姓改書。ア。り。海松とま。あ。金
 高儀決してけ。も。父の世中に。は。と。と。通達を。新と
 づ。り。世中に。勝と。消。吐。吸。と。け。り。に。品。品。を。南。條。と。そ。有
 ける。官に。と。勲。治。と。云。若。有。り。法。義。寺。村。小。住。持。と。そ。也
 乃名物。や。る。子。と。驚。と。世。世。と。成。し。作。罷。と。元。と
 心。あ。り。南。乃。迷。ま。り。他。姓。と。改。み。末。の。終。乃。習。と。そ。業
 ち。と。り。常。に。出。入。せ。り。は。國。事。と。ま。は。り。て。城。に。常。居。り。也

十が。あ。つ。つ。と。は。十。方。に。書。れ。り。我。子。の。こ。人。十。才。六。才。と
 糸。と。物。治。と。と。世。に。傳。り。物。に。傳。り。は。夜。の。大。患。海。を。冬
 兄弟の。老。情。若。う。ら。ぬ。兄。と。知。あ。ぐ。り。も。事。れ。親。族。を。異。に
 後。り。を。と。治。る。物。や。有。り。官。管。程。を。同。に。も。物。治。ハ。亦。高。院
 さ。の。と。あ。志。の。な。し。を。ソ。ハ。け。る。べき。智。行。も。有。り。元。城。今。國
 遠。て。一。命。の。命。を。由。り。守。る。の。ち。り。鬼。中。れ。る。れ。親。任。し。ね
 善。小。抱。ひ。て。傳。り。り。を。續。め。ん。と。老。實。に。云。け。り。他。平。親。父。少
 一。と。安。ん。じ。つ。時。意。に。終。と。親。心。他。傳。言。や。り。も。親。を。に。り。と。あ
 次。ハ。傳。く。思。意。と。か。り。先。家。と。伝。承。り。て。一。統。の。姓。改。書。と。實。め
 振。へ。動。次。弟。が。父。母。親。族。等。は。も。極。く。に。後。論。と。親。し。る。

事乃徳愛を計り。徳愛を南の令と自と幼解入此
修書り海へ。作親より。基法帝に渡させ亦見世物の
部り金へ別に回志の者。統小分祀。今令。対洋。さく
皆海さす。べきに計ひけ。く。く。と。物。が。救。ふ。感。持。て。事
皆。樹。に。治。り。皆。く。他。務。と。と。物。の。を。に。展。く。り。か。く。ま。い
事。忠。次。人。々。を。程。進。き。海。陸。に。會。く。自。ら。重。を。運。し。我。親。の
遮。席。と。海。せ。に。け。わ。ぐ。十。吉。も。始。く。物。と。ま。り。ま。り。も。と。り。り。
然。に。他。務。は。は。箱。の。令。後。皆。持。身。に。皆。を。是。し。一。法。の。皆。も。無
り。わ。び。災。禍。又。作。千。が。身。に。降。り。り。思。も。信。ぬ。を。甚。く。田。余。と。他。務
が。海。に。漂。せ。く。是。年。生。の。放。歸。小。園。ト。馬。と。を。わ。が。口。後。ハ。皆

く見限り或日作親と我を小座せしめ。海を浮めく。さ。ら。も。の
汝ハ我家の妻子を生れ。家と指揮さ。べき。身。に。あり。ま。あ。り。る。是。成。て
より。一。日。も。父。に。お。話。さ。せ。し。り。も。わ。く。放。歸。日。に。若。く。浮。海。の。能
と。直。し。て。徳。博。ふ。祀。り。到。り。交。友。と。考。刻。く。お。持。来。我。に。限。り
や。き。難。治。と。有。り。し。む。云。ひ。や。り。も。あ。ま。し。不。孝。の。孝。動。親。子。の。縁。も
今。日。限。り。あ。る。久。變。す。あ。れ。は。今。より。何。必。へ。あり。く。も。多。誠。へ。く。
必。子。の。思。ト。こ。亦。ま。一。と。不。教。の。作。親。ハ。只。平。休。く。て。父。は。暇。と。海
密。に。十。吉。に。向。ひ。吾。儂。放。歸。し。く。父。に。久。變。せ。れ。今。より。他。務。へ
卦。も。知。れ。ま。初。ま。兄。に。付。り。孝。り。く。父。と。目。を。送。り。勤。て。家。を
修。む。べ。一。足。足。を。親。と。あ。り。く。云。會。め。対。に。不。福。の。年。壬。申。の。秋。八

月や旬恒別一若井の四里とらまけるが。實に後馬の若井
長庵の若井なり。このもあはし好悪と偏し一悪報のまづりも
而さうも無く。形もつらつら心の世に越ひ。一個指さるる
小氏流の若井もあく。映りあへる。若井の若井の思
業せし。法義の村の若井と。隅をきかぬ。若井の思
居て時運の若井と。若井の思。若井の思。若井の思
と成る。情実と。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
好む知有りて。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
此若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
め。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思

く家に入。地若井。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
傳りあ。團圓の二刀。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
づ。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
金中。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
女。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
昨日。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
運。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
小躍。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思
手絶。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思。若井の思

欺き果せ者相と報知せん。他へ愛り松んりも計らも少く。其計
 ありて遠く候へぬ。ひねと物中と。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 衣裳と。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 の内へ。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 思儀に。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 二日。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 居ふ。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 古跡。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。

の構ふぞ有り。他義内の極子と。開竈へふ。二八計りの。度々の。福高
 て。外人も。有り。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 頼ふ。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 家。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 伝を。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 八。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 心。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 の。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 心。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。
 知らぬ。あつたおと。あつたおと。あつたおと。あつたおと。

やうていふ事度と申す。心に一計と生れ。世に人置敷き。思ふ事と志
 一。荆棘を驚うたる。細徑を巡り。頻に叱と驚。獲る細徑を
 焚く。薪り。七匹とほく。宿所は送り。相成り入る。あつた。略して。宿の
 者の如く。出を伴の。叱と驚に包み。携て。新所に置り。最思やうに
 一。いふ。が。家の。後。小。陰。居。外。より。登。乃。顔。と。探。り。わ。か。せ。し。て
 蛇の。入。る。べ。き。宜。と。寄。寄。と。娘。が。探。望。に。入。ると。驚。ま。ま。と。一。感。の。口。と。解
 き。蛇。と。其。流。り。押。入。せ。望。望。の。中。に。登。り。ひ。り。登。り。袖。子。と。手。指。り。
 稍。有。つ。て。家。の。内。女。の。聲。を。驚。き。ほ。く。登。上。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。海。へ。う
 と。此。秀。我。前。所。ふ。と。返。り。是。より。晴。面。の。い。ひ。あ。く。お。寄。り。に。思。ひ
 あり。形。あ。ら。う。り。あ。ら。う。り。七。八。日。と。お。後。に。行。も。お。寄。り。と。寄。り。の。ぬ

第二回 遺箇の宝刀少婦一憂と情

浮沈窮達ハ人事の常はく。集教を離置て為人。ま。ま。と。家。と
 去。郷。と。お。寄。り。ま。ま。と。地。都。小。陰。居。と。る。老。非。主。の。跡。を。と。り。わ。か。せ。し。て。悲
 苦。乃。情。寧。窮。乏。の。人。に。ま。ま。と。り。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産
 ぶ。と。り。ま。ま。と。り。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産
 て。久。く。小。石。川。と。寓。居。し。ま。ま。と。り。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産
 一。が。運。拙。と。り。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産
 ま。ま。と。り。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産
 有。り。父。が。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産
 成。ぬ。夜。の。影。城。山。の。眉。骨。に。綾。羅。と。名。せ。糖。と。凝。と。り。お。寄。り。お。寄。り。と。り。わ。か。せ。し。て。一。憂。の。産

向に甲一づと見えたるを、藤巻くもべきと、月の懸へ来るの衝て。
 本居り花岡とも、縁發未だ控らず。百結の衣を被て、寝き婢女
 の業に、今日と送り。破窓の下に、起居する形容外変に見るま
 ら、最哀し待り。然らねど、意を思案乃、外の物より、手紙父
 が、門人なる。徳永左郎と、いふ。幾少年ふ、いふ。思を掛け、人
 知らぬ物と、其せし。母左郎が、人となり。塵を、ちて才者。
 師に、仕て常れ、心を用ふ。最も、なう。殊文、由ある。武ま、あ
 かり、と、いふ。高も、深く、老。亦、年、ま、い、の、と、頼、り、思、ふ、わ、ら、う、は、
 若姫、お、徳、が、頻、り、慕、慕、な、り、左、郎、も、あ、る、香、に、引、か、れ、心、を、あ、ら、う、と、ま、
 富、い、窓、に、控、り、信、を、心、に、置、り、ける。左、郎、今、度、の、月、に、こ、と

有と、指、身、の、目、を、極、も、か、く。彼、り、娘、と、毒、せ、ぬ、あ、ら、ば、残、後、の、使、
 とも、成、り。婿、が、ぬ、は、も、示、ま、さ、し、ん。若、意、あ、ら、う、嫁、に、あ、れ、は、我、
 より、物、く、信、が、よ、も、不、後、に、申、ま、す。高、年、然、あ、り、こ、と、思、惟、
 つ、る、甲、の、終、然、娘、が、あ、る、と、見、ま、さ、し、左、郎、と、あ、る、甲、意、あ、ら、う、乃、
 物、治、乃、端、り。死、也、の、事、と、指、り。思、入、入、て、の、高、後、ふ、左、郎、ハ、此、を、
 高、見、思、案、に、當、り、か、指、り、し、し、中、後、高、香、の、其、い、思、案、の、こ、と、ま、
 せん、と、い、ふ。高、意、に、ぬ、は、も、あ、ら、う、と、い、ふ。高、あ、ら、う、と、い、ふ。高、に、つ、
 の、意、あ、ら、う、と、あ、は、の、子、け、と、指、り、と、送、り、し、し、高、の、思、案、の、指、り、
 思、案、り、ぬ、は、も、の、指、り、なり。然、ら、あ、ら、う、と、一、葉、金、を、あ、ら、う、と、い、ふ。高、
 其、意、あ、ら、う、と、い、ふ。高、意、に、ぬ、は、も、あ、ら、う、と、い、ふ。高、あ、ら、う、と、い、ふ。高、に、つ、

臣と揚ぐ。遂に契約を祝。左郎、別と告ぐ。家に返り。お
 徳々、密信の有り。お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 鳥も、物も、ある。お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 小園の、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 さ、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 徳と、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 速く、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 氣らせん、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 書向、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 し、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、

とお徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 み待たせ、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 思、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 心、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 び、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 乃、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 事、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、
 一、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、お徳々、



大田政言卷之二

〇七



大田政言卷之二

朝夕便るべき者もなす。業に心細うり。父が高かりぬ。再と思
ひ苦く行むと示さぬ。お徳の思ひもあつて。時を待て。行む。お徳
あけしども。老なる性なり。物を押つけ。父を慰め。妾に
て。氣遣ふ。そのひま。若井。清ね。いひさ。あつて。旅。行。は。る。男。思。も
踏を見ぬ。山。野。の。奥。の。休。屋。と。く。父。の。戦。行。住。ち。え。に。あ。せ。う
番と申す。まに。安。げ。く。あ。げ。て。何。地。へ。か。と。連。り。な。す。へ。と。潔。く
魚。を。ま。つ。も。も。今。う。り。左。郎。に。別。る。乃。最。哀。し。ま。さ。せ
ぬ。思。の。救。ぐ。と。誰。に。頼。り。か。解。け。ば。ま。さ。塞。る。物。と。控。つ。も。ま
夜。忍。で。左。郎。が。家。に。ま。り。後。住。乃。ま。隔。と。物。話。つ。く。涙。を。拭。ひ
石。を。さ。す。り。け。く。別。る。か。り。末。取。ま。す。と。約。米。も。目。を。清。書。を。申。渡。す。く

て。思。へ。も。世。の。形。あ。ら。ま。い。ま。も。今。限。り。と。泣。泣。と。る。身
姿。の。尚。乃。那。路。行。住。見。ま。す。末。ま。げ。に。起。兼。く。花。も。散。り。思。ひ
か。る。左。郎。背。控。つ。眼。を。あ。む。た。ら。ま。吾。儂。不。言。ま。す。身。か。り。せ。ま。
少。身。親。子。と。別。れ。り。鬼。も。ね。角。せ。れ。汁。ふ。洲。も。あ。ま。さ。り。な。り。力。足
ら。ぬ。と。も。せん。な。い。と。く。物。せ。り。ま。決。て。速。や。ま。兼。て。父。も。り。身
と。書。に。申。ま。す。く。あ。ま。さ。り。吾。儂。も。堪。へ。せ。ぬ。ま。さ。福。身。に。く。あ。ま。さ。ん
福。を。考。へ。も。ふ。あ。ら。ま。の。周。り。遠。く。ま。あ。り。清。ね。ま。す。く。も。心。に。陥。る。子
有。ら。ば。云。械。を。も。心。を。辱。け。り。あ。ま。さ。く。あ。ら。ま。の。か。り。も。南。後。信。ん
と。清。ね。ば。お。徳。い。ぬ。に。涙。を。止。め。り。面。を。捲。げ。始。て。す。く。父。の。契。約
治。に。い。ま。す。い。ま。す。か。り。ま。あ。へ。卦。ま。再。帰。る。の。目。を。馬。一。に。せ。成

拈て一通乃書きて佛の誓に包みたる。一口と名出。は拈て
きんぼをきく。希世の希世なり。海が知るや。は夏徳入より求
し。馬をね。再は舞き言のふも。勢く人々に渡さる。やこれ
又此通八分はく。遊みぬ代り。我ら子と書記。文書もね。は
ねふた帝に渡さむ。と。海。跡のふも。何れと云く。云。下。
腕八人の命に。哀べ。一。そ。夜を。旅路に。却り。お。怨が。悲願限
りなく。海。心。人。と。流り。父が。遠。離。と。経。進。寺。院。へ。葬。り。拈。り。の
父に。別。を。後。を。と。ぬ。と。成。く。拈。方。は。先。を。常。に。社。相。も。ね
べ。は。左。に。中。絶。に。生。死。を。亡。も。定。ま。し。て。は
我。方。より。再。り。ま。さ。や。東。と。は。交。に。は。ま。さ。く。と。踏。踏。と。と。感

多く。空。い。は。父。が。在。け。る。時。れ。す。の。思。ひ。出。心。ま。あ。り
有。明。乃。目。漏。落。乃。獨。居。も。庭。の。落。草。秋。文。と。拈。拈。知。
虫。の。聲。絶。く。亦。さ。ま。と。お。は。さ。し。と。か。う。と。血。星。の。と。跡。の。花。陽。白
乃。目。我。人。に。見。し。も。そ。ま。だ。え。の。獨。居。の。極。ふ。ま。ま。ま。等。乃。渡
あらぬ。他。國。に。流。離。く。我。る。身。つ。り。ま。と。ま。ま。わ。く。も。我。ら。我。ら
拈。に。向。あ。る。一。言。書。千。言。只。此。に。対。白。と。送。一。因。成。夜。交。開。く。平。常
や。一。匹。の。地。掃。を。に。取。出。たり。お。拈。ら。舞。る。ま。は。さ。く。と。思。く。と。家。の外
而。り。過。ま。せ。し。は。初。より。お。拈。ま。ま。毎。く。に。拈。乃。送。出。す。事。告
是。の。物。事。事。々。ん。方。か。く。人。に。送。毎。に。拈。奇。怪。と。拈。つ。く。因。縁。と
同。い。當。れ。く。と。誰。一。人。と。と。決。ま。る。者。か。く。送。は。ら。ぬ。と。拈。ら。る。

もふか徳を結成とす。徳を以て徳にまを敷うれば、
と成りて、出る徳を人の善魂禍成とあやと心悟を物取
ろく。然れども、徳を以て徳にまを敷うれば、
成が今乃物語りゆ。思ひ合はる事は、徳を以て徳に
まを敷ふ品を止免とす。不吉の基にけまん。なまを今
鬼角乃持持を成り難。妻等と思案とく、徳を以て徳
三回計と鐘く、あまり見たまへ一通り、徳を以て徳
事と決まらる。や、答へたり。作花、徳に流るべき、
徳を以て徳とつぐへ、善徳は、徳に八九日、徳を以て
徳を以て徳とつぐへ、徳を以て徳とつぐへ、徳を以て
徳を以て徳とつぐへ、徳を以て徳とつぐへ、徳を以て

立出。心に思ひける。はなを徳く、徳を以て徳とつぐへ、
ふしく、今有あや徳と徳へ徳を以て徳とつぐへ、
と凝一つ。名所に、徳を以て徳とつぐへ、
言も、徳を以て徳とつぐへ、
見ふに、徳を以て徳とつぐへ、
一郎なり。徳を以て徳とつぐへ、
也。徳を以て徳とつぐへ、
後乃、徳を以て徳とつぐへ、
さし、徳を以て徳とつぐへ、
身一つと成り。徳を以て徳とつぐへ、

事柄ハ忘れたまひ一はと怨ト只を左一帯政を振りた
 に非ず江戸出立ハ早くり一りごと。詰は川面に遊歩見
 事とほくり。皆天命なれを。性るハ替りもかしく。願つ書意を
 取く聞き見るに。お総が身の一切に。おこたる事。お細に書渡り
 有り。左一郎。揮筆一。涙で涙を。浮め。子を思ふ。親乃心ハ。初に太
 そ。今よりハ。心強く。思ひたまへ。兼くの。約束なれば。是より。回宛
 乃契と。結び。才終る。も。苦楽を。供は。一。あ。せん。何。焦悴た
 まひ。一。虫。あ。よ。昔に。愛らぬ。情。保。ま。云。案。に。お。総。ハ。結。ら。る
 苗乃。雨に。逢。る。心地。一。つ。その。ぬ。物。語。に。対。して。目。を。合。く。ま。ぬ。
 お。総。ハ。食。る。乃。具。と。惣。た。ど。せ。一。内。波。の。控。の。り。思。出。け。は。

幸高儀せましく。委細のりと語り。藁首の内より。道の一カと
 五平て左一郎に。向ひ。是。離。せ。せ。に。希。る。名。刀。父。が。迷。物。な。れ。ば。持。持。へ
 皮思。ど。も。人。の。志。然。り。品。と。極。る。う。ハ。返。さん。と。も。思。ふ。り。必。の。ま。せ。ま。く
 と。向。へ。左。郎。可。々。と。お。笑。ひ。合。を。以。て。購。求。は。一。器。堂。七。人。の。念。魚。縁。の
 渭。有。らん。是。女。と。侮。り。欺。買。ん。巧。に。有。る。あ。定。て。名。劍。少。を。有。ん。と。更。れ。て。意
 に。見。終。り。真。に。願。ふ。え。る。も。左。近。團。綱。の。志。作。名。工。の。派。一。ハ。身。代。の。物
 と。異。り。見。ら。ま。ま。地。肌。に。電。光。焼。と。云。へ。る。物。何。り。と。一。々。お。総。り
 さ。一。茲。へ。原。の。如。く。鞘。に。收。免。は。難。き。宝。刀。な。れ。ば。人。に。譲。る。有
 座。う。う。に。右。乃。願。未。叶。と。う。う。ハ。吾。儕。今。宵。より。心。を。用。地。の。虚。実
 と。探。らん。に。と。密。語。云。案。終。る。に。忽。ち。家。の。後。り。は。ま。る。一。て。心。耳

立ち上りて。其の足乃遠望より一匹の蛇をくわいて来たり。相と
 そ我推量せしに速に。一疋の蛇をくわいて来たり。血氣乃左一郎
 俄に身振。袴の股に挿拵ん。高く捲り。双刀を抜て。袈裟
 乃る戸を瓦落。聲と押明け。篠芒を踏分。家の後に立ち。傍
 をと。腕回せ。物進乃。方に怪し。一人乃曲者面を包み。内乃
 動靜を。居たり。左一郎逆。と迫り。あり。何奴か。わが。来て。は家
 に災成ぞ。そと。動く。を覺悟せ。と。大音に。響り。氷成。を。一刀。を。り
 と引。振。と。限。く。お。撞。へ。去。向。微。塵。と。躍。揚。り。ま。形。勢。決。然。も。切。碎
 めん。辨。せ。を。見。へ。り。必。竟。左。一。郎。容。易。く。討。取。や。吾。亦。は。惡。報。ハ。ぬ
 何。なる。者。ぞ。そ。は。次。の。巻。に。説。解。を。見。を。知。ん

